

○議長（上米良 玲君） 4 番、白石幸喜君の質問を許します。

○議員（4 番 白石 幸喜君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 4 番、白石幸喜君。

○議員（4 番 白石 幸喜君） それでは通告書に従いまして村長に質問をさせていただきます。

今月 3 日付の新聞におきまして、2 期目を目指して次期村長選挙に向けて立候補の意向という記事が掲載をされました。意向ということなので、正式ではないというふうに思いますので、私も気を取り直してですね、質問をさせていただきたいというふうに思います。

今回は大きく 2 つに分けての質問となります。よろしくお願いをいたします。村長は今年第 42 代西米良村長として 1 期 4 年目となられました。幸せ度の高い持続可能な村づくりを目指して、現在まで西米良村民ファーストという形で村政を牽引されておられます。そして村長に就任されました令和 4 年 5 月号の村広報紙かりこぼうず、また同年 8 月号の議会だよりに村長としての目標や思いを語られておられます。目標としては人口減少対策、それから健康寿命の延伸と福祉の充実、地域で支え合い地域の課題を解決できる体制づくり、農林業の担い手育成、事業者同士の担い手雇用確保の問題共有、国道県道の改良要望、道路・河川災害時の迅速な対応を掲げ、村民 1 人 1 人が自分の幸せを追求できる環境条件を整えることで、幸せ度の高い持続可能な村づくりを進めていきたいと語られておられます。当然であります、1 年 2 年で達成できる短期的な施策ばかりではありませんし、中・長期的な視野を持って進めていかなければならないものも当然ございます。私自身も含め、すべての議員が今まで住民代表として、議会として、黒木竜二村長村政に対して、一般質問等を含めまして、様々な形で要望や提案等を行って参りました。そこで 1 期 4 年目、途中ではございますが、黒木竜二村政を振り返りまして、村長ご自身どのように評価されているのか、現時点での自己評価について、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 4 番、白石幸喜議員からの質問にありましたが村長 1 期目の自己評価と、次期村長選への出馬についてお答えを。させていただきます。私は就任以来、幸せ度の高い村づくり、活力のある村づくり、安心安全で持続可能な村づくり、人口減少対策の 4 つを基本方針として掲げ、村民ファーストを基本姿勢に村政の舵取りに尽力してまいりました。この間、全国的な人口減少や少子高齢化の進行、そして度重なる自然災害、新型コロナウイルス感染症など、村

にとっても大きな試練が続きました。その都度、村民の皆様そして議会の皆様方と意見を交わし、ご理解を得ながら力を合わせ、村政を着実に進めることができたと考えております。就任時に掲げました7項目の目標について主な成果と課題を申し上げます。まず1つ目、人口減少について申し上げます。私は西米良で暮らしたい、西米良で子どもを育てたいと思っていただける環境づくりを重要な課題の1つとして、取り組んで参りました。まず、移住・定住の推進を担当する部署としてすまいる課を新設して、相談から受け入れ、アフターフォローまでを一体的に対応できる体制を整えました。その結果、移住相談件数が令和4年度の9件から令和6年度には21件へと着実に増加をしており、また移住者の受け入れについても、一定の成果が見られております。あわせて宮之瀬定住促進住宅の建設等による住まいの確保や、移住者同士の交流の開催など、移住後の生活環境を支える取り組みも進めて参りました。一方で、移住後の就業機会の確保や、育児と仕事を両立しやすい環境づくりについてはまだ十分とは言えず、引き続き大きな課題があると認識しております。具体的には、働く場の創出や本村に縁もゆかりもない方でも安心して子育てができるよう、保育や教育面での支援をさらに充実させるなど、定住に繋がる施策を進めて参ります。2点目の健康・福祉施策では、高齢者の健康寿命延伸について特定検診の受診率が令和5年度に81%で日本一となりました。6年度においても84.8%と暫定値ではありますが、日本一ということで、検診率の向上が病気の早期発見・早期治療に繋がり、その結果、村民が健康な日々を過ごすことができる体制を構築しております。各地区で定期的に実施しているいきいき教室や通いの場では、それぞれ年間延べ1000人ほどの利用があり、運動や交流の促進に繋がっております。また、高齢者への福祉施策では、福祉住宅の整備により、安心した生活を確保することができたほか、移動手段の確保として互助運送制度やデマンドバスの運行を開始し、免許を返納された方々に安心して利用していただいております。しかし、医療・介護現場の担い手不足や多世代の健康増進施策の拡充は、今後の重点課題であります。3点目に地域の支え合いについては、コロナ禍の人と人との関わりが希薄になった時期を経て、自治公民館活動や行事・イベントなど様々な活動が、その形態を変化させながら、少しずつではありますが、復活してまいりました。本村の力は何といたしましても連帯感、コミュニティの強さであります。外部の力、若い力を借りながら今後も新たな支え合いの体制を構築していく必要があると思います。4点目の農林業の担い手育成では、複合経営の推進や資格取得の支援、若手や新規就農者への研修や補助制度の充実に努めてまいりました。その結果、一定の新規就農者の定着も見られております。しかし、担い手不足の解消には引き続き取り組んでいく必要があります。5点目の事業者同士の担い手・雇用

確保の問題共有については、雇用機会の創出や働き手確保に向けた取り組みを行ってきました。

しかし、事業者の長期的な人材確保は依然課題であり、今後も支援を続けてまいります。6点目の道路整備については、本村の目指す「村所を拠点とした10分構想」を実現するために、村議会の皆様方とともに、国道改良促進の要望活動や道路に関する会合に積極的に足を運び、関係機関との連携を推進してまいりました。特に国道219号においては、国・県から切れ目のない予算を投じていただき、着々と改良が進められております。林道小川・石打谷線につきましても、今年度中にはようやく開通する見込みであります。7点目の災害対応では、昨今の温暖化により台風や線状降水帯による豪雨被害がいたるところで頻発しておりますが、災害時の消防団による避難誘導、関係事業所との連携を図り、被害状況を把握し、迅速な道路・河川復旧体制を整え、村民の安全確保に努めてまいりました。その他にも、関係人口1000人創出事業の中で、村内の活力を生み出すとともに、人口減少を緩やかにする人づくり・人材づくりを行っているところであります。すでにある自然資本や観光資源を今一度活用して情報を発信し、交流人口の増加を図るとともに、西米良ファンを生み出し、関係人口創出していくことで、2地域居住、定住につなげていく取り組みも進行中であります。このように様々な施策を着実に積み上げてまいりましたが、一方で人口減少や担い手不足、災害対応など、まだ道半ばの課題も多く残されております。はい。

一応、私の今までの実績というところで質問のあったことを答弁させていただきました。以上です。

○議員（4番 白石 幸喜君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 4番、白石幸喜君。

○議員（4番 白石 幸喜君） はい、ありがとうございます。本当に冒頭言いましたけども、短期的でできるものもございませんし、すべてパーフェクトにこなすことは不可能というふうに思いますが、村長ご自身がしっかりと今答弁されたように、ご自身で検証されているということは今後に繋がるものというふうに高く評価できるというふうに思っております。

それでは率直にお聞きしたいというふうに思いますが、来年4月4日の任期満了に伴い、2期目を目指して、次の西米良村長選挙に立候補、出馬されるのかお伺いしたいというふうに思います。そして加えまして、今ご答弁されましたが、自己評価を踏まえ、具体的にはこれから整理されていかれるというふうに思いますけども、2期目に向けてですね、一番重要とされている施策等についてどのようなお考え、想いを持たれているのか、お伺いしたいというふうに思います。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（上米良 玲君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） まだまだ道半ばの課題も多く残されておりますけれども、今まで私村長をさせていただきました。その課題に引き続きしっかりと取り組み、力強く、西米良の未来を思いやる、幸せの高い持続可能な村づくりをさらに進めていくため来年の村長選にも挑戦をさせていただきますと考えております。先ほどの施策についてでありますけれども、私も当初から1000人が笑う村作りということで、やっぱり人1人1人の村民を見るということ等を念頭に掲げておりました。やっぱり、1000人を笑わせることはなかなか難しい。本当に村民1人1人の生活、そしてその幸せがどのようなレベルなのかこういうこともですね見るっていう、そこを見て解消するっていうことはなかなか困難なことであるなど実感しておるところでございます。ただ議員の皆様方の先ほどから申し上げている課題であるとか、お声であるとか、そういうことをしっかり拾い上げて施策に反映させるということが大切なことかなと常日頃から思っております。それと同時にもちろん、先ほどの8つの地区がありますけど8つの地区の実情とか課題もあります。それは何なのかももちろん人口減少によって高齢化になって、そして今から先の若い世代がどういふうに今度は未来をつなげていくか、今の方の年配の方々がどんな不安を持ってらっしゃるのか、様々なものがあるかと思えます。いつも私お伝えさせていただくんですけど西米良村章に「西」「米」「良」「村」と、米良の村章がありますけれども、この村章については、米の字が記されております。横軸に過去、そして真ん中に今現在、そして右側が未来ということ。そして縦1本の軸には1000人の人がそれぞれが生きてる、そこが今ここを生きてるというような考え方、そして、1つの米粒には活力を持っていただくと。活力は何かといいますと、やはり毎日の目標、しっかり目標を立てながら未来を向けながらそこにしっかりと生活をする、或いは交流で人と人との関わり合うことによって活力が満たされる、そういう活力、そして今度はそこに人口減少を緩やかにする人づくりということ。もう1つの米粒にはですねその米粒には人づくりと。教育に関してもそうでありますけれども、西米良に5年先10年先、どれだけの人たちが、この西米良に誇りを持ってもらって生活していくか。こういうことをしっかり考え、そして安心安全な村づくりについては、安心して、そして安全な生活環境を整えるということであろうかと思えます。ここについても災害対策であるとか、非常にありますけれども、そういう部分、そして再最終的にはこの中山間地の中で、この西米良村で厳しい環境の中でも、所得が他のところよりも安くても、ここでしっかりと誇りを持って西米良を守っていきたい。こういうことに幸せが実感できるか、

こういう人たちをとにかく想像していくということが大切かなと思う。そのためにはやっぱりいろんな形で話し合いながら幸せを実感できる時間を共有したいなと考えております。そういう意味につきましてもですね、様々な施策をまた今後させていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いしたいと思います。以上です。

○議員（４番 白石 幸喜君） 議長。

○議長（上米良 玲君） ４番、白石幸喜君。

○議員（４番 白石 幸喜君） はい。村長の想いというものを十分お聞きできたというふうにあります。村長選挙は来年３月になるかというふうには予測ができますけども、選挙に向けてこれからどのような状況になるのかというのは分かりません。しかし今年ですね教育長、それから副村長、新たにお迎えすることができました。それぞれ、やはり村の幹部として新たなご意見等お考えをお持ちだというふうに思いますし、当然村長１人で村政を引っ張っていくということは、もちろんリーダーとしてはやられますが、実際に動くのは職員の皆さんというふうに思っております。西米良には優秀な職員の皆さんがおられますから、すべての職員の皆様とともにですね、1000人が笑う村実現に向けて、まだ任期もまだ７ヶ月残っております。当然ですが、力強く村政を牽引していただくようお願い申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。